

# No. 984

## 冬の訪れ

—北海道—

北海道の屋根、大雪山。海拔2,290メートルの山麓はもうすっかり冬景色。スキー場開きにはシーズンを待ちわびた2,000人のスキーヤーがかけつけました。ゲレンデは、思い思いのシェパードを描くスキーヤーでいっぱい、久しぶりの雪の感触を楽しんでいます。かわり易い山の天気、吹雪にもめげずすべりまくる北国の子供たち。北海道はもう本格的な冬のシーズンに入りました。

## 師走総選挙 スタート

内外ともに政治、経済の大きな転換期を迎える中で、田中内閣で初めての総選挙が11月20日スタートした。3年ぶり、70年代初の総選挙とあって『列島改造』や『四次防』『福祉』など争点も多く、各党首は気負いと緊張感が高まる中で、いずれも都内の広場で第一声をあげた。

午前10時渋谷駅に乗りつけた田中首相は

「これからは福祉の充実こそ、わが党の使命である。と高度成長で高福祉だ、とブチあげた。

成田社会党委員長も首相と同じ渋谷駅で第一声。

「改造論がすべての問題を解決するとの発想は町の新興宗教と同じ考えだ。田中内閣に物価高の解決を期待するのは泥棒に留守番を頼むようなもの、と力をこめて改造論を批判した。

また公明党の竹入委員長は、

「日中国交回復は自民党の手柄ではない。少し虫がよすぎる。自民党の『決断と実行』は『独断と暴走』、だと結んだ。

春日民社、野坂共産両党首がハチ合せとなった新宿東口駅前では、

「もし民社党が50議席を取ることができれば、野党連合の中核となりかの自民党の一党独裁による政権たらいまわしを打破できるのであります。」と祈るような口ぶりで春日節。

一方野坂議長も

「田中内閣の正体はわかってきた。一善九悪の内閣だ、と80才と思われぬ元氣さ。

各宣伝カーのまわりには大勢の人々が集まり、選挙への関心の高さを見せた。こうして日本列島は投票日の12月10日をめざして師走選挙へ一切にスタートした。